

証言映像

今回、新たに収集した証言映像を中心にご紹介します

(敬称略)

■前期 8/1～8/12

【傷痍軍人の妻として】



療養中の写真(故・大神録郎)

証言 大神つや子(故：大神録郎)

長谷川はつ子(故：長谷川照雄)／大阪府

戦争中に結婚した傷痍軍人の妻の対談。

大神さんの夫、録郎さんは昭和17年8月に中国で右眼を負傷し失明。その後、大阪の陸軍病院で療養中、看護婦をしていたつや子さんと出会い、翌18年に結婚した。

長谷川さんの夫、照雄さんは昭和19年12月、フィリピンにて右足を負傷。昭和19年にはつ子さんと見合い結婚をしたが、すぐに戦地に赴いたため、結婚後初めて顔をあわせたのは、負傷後の入院先の病室だった。その後の労苦を語る。

【遙かなる故郷】

証言 菅原光雄／北海道

【字を書く手を受傷して】

証言 上良市雄／大阪府

【衛生兵ゆえの感染】

証言 築山英二／大阪府

【支えられた歩み】

証言 蔀肇／北海道

【療養所は大きな家族】

証言 渡邊重男・文枝／神奈川県

【赤レンガのめくもり】

証言 松田康人／北海道

■後期 8/14～9/2

【父のまなざし】

証言 宮下茂子(故：高松秀次)／北海道

【伸びきった最前線での受傷】 証言 南野万吉／大阪府

昭和17年2月に現役入隊。陸軍の歩兵として中国での警備と戦闘にあたるが、芷江作戦では補給がないまま行軍を続けた。昭和20年5月、中国湖南省で敵に狙撃され下顎骨貫通銃創。すぐに後送され治療を受けたが、舌を負傷したため、食べることや話すことに不自由を感じる時がある。

【衛生兵のビルマ戦線】

証言 辻新次・フミ子／大阪府

【親指が支えた人生】

証言 三宅一志／大阪府

【受傷した身にまた召集が】

証言 黒川初夫／大阪府

【平和の光を見つめて】

証言 武田豊／北海道



受傷時の血がついた雑のうと水筒